

ムダな業務プロセスを削減し、効率性を上げる 身近な作業のIT化による コア業務への集中が、高い競争力を育む

現代の企業が着実に成長するには、営業活動や製品・サービスの品質向上はもちろん、バックオフィスの業務効率化も欠かせない。代表的なのが経費精算で、これに費やされる労力や時間は、一件の規模は小さくても、集積すると莫大な無駄になっている。そのため、経費精算業務をIT化することで効率性を高め、競争力の強化につながる企業が増えてきているという。その背景と現状について、株式会社ラクス代表取締役中村崇則氏が語る。

従来の業務プロセスには多くの「ムダ」が潜んでいる

日本企業の「アキレス腱」としてかねてから指摘されるのが労働生産性の低さである。これを向上させることは、これからの社会において、企業が競争を勝ち抜くために欠かせない条件と言えるだろう。こうした認識は、企業がこれまでの管理業務の一つひとつ見直していくきっかけになっており、大幅な改善が必要な業務も少なくないという。典型的な例が経費精算だ。「経費精算をまだ紙やExcelで処理している企業は多く、この処理に費やす時間、労力は、会社トータルでは莫大なものになっています」と、株式会社ラクスの中村社長は指摘する。

「交通費精算一つ取っても、一件一件費用を調べ、所定の書式に記入し、プリントアウトして上司に申請しなくてはなりません。上司はこれを承認し、用紙を経理に回します。経理は内容の確認、集計、仕訳、会計ソフトへの入力などをする必要がありますが、これらを手作業で行っている企業がまだ多いようです」。

こうした作業は、収益性はないにも関わらず、日々、社員から、多大な時間と労力を奪う「ムダ」とも言える。そこで、その効率化に取り組む企業が増えているのだ。

経費精算のムダを無くすカギはIT化にあり

「その手法として注目されているのがIT化です」と中村社長は語る。人の手による作業は煩雑で、時間がかかり、誤記入などのミスも発生しやすい。「ITを利用して一度、仕組み化してしまえば、経費精算業務の時間は劇的に減らすことができます」。ラクスの試算データによると、IT未導入の一企業において、経費精

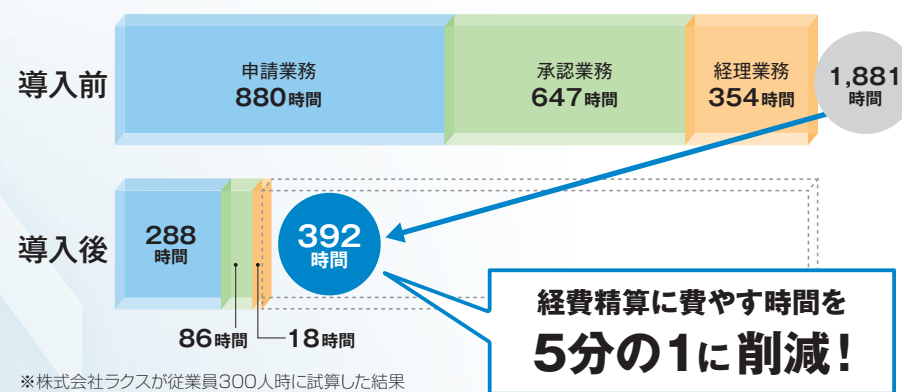
算業務にかかっている時間は、年間実に1,881時間^{*}。収益を生むことのない業務にここまで時間を費やすのは非効率的であると言える。しかしITを導入すれば、年間392時間と、約1/5^{*}にまで削減できるというから驚きだ。また、コストカットも見込め、毎月約43万円^{*}ものコスト削減となる場合もあるという。企業が労働生産性を高めるには、IT化という視点が必要だろう。

IT化と言っても様々な方法があるが、費用対効果などを考えると、膨大な費用と期間がかかる自社開発や、対象業務が広く高額なERPではなく、経費精算に特化したシステムを導入することが有利なのは明らかだ。

そうした中で高い評価を得てきたのがラクスの『楽楽精算』だ。クラウド型の経費精算システムで、申請、承認、精算という経費処理の三つのプロセスすべてをIT化できる。クラウド型経費精算システムとしてはNo.1、1,000社以上の導入社数を誇る。

※株式会社ラクスが従業員300人時に試算した結果

『楽楽精算』導入前と導入後の経費精算時間の比較(従業員300人の場合)



『楽楽精算』の導入で各部署のムダを一斉カット

『楽楽精算』の導入によって、経費精算に関する業務の負担を大幅に減らすことができる。

例えば『楽楽精算』には交通系ICカードの利用履歴を読み取る機能を搭載している。ICカードリーダーにカードをかざせば、利用履歴が読み込まれ、そのまま申請データとして使えるのでスムーズだ。

また、ICカードを使わない場合も、『乗換案内』が内蔵されているため、社員が交通費を申請する時、運賃は自動計算される。申請した内容が「早」、「安」、「楽」な最適経路かどうかアイコン表示されるので、承認する側の上司もスピーディーなチェックが可能。さらに、スマートフォンに対応しているので、移動中の隙間時間などを使って効率よく承認できる。

クレジットカードとの連携機能も見逃

せない。マネージャークラスであれば法人カードを持つ人も多い。カードの利用履歴が『楽楽精算』には自動連携されるため、精算時の入力作業が省力化できる。

経理部門にとっては、自動仕訳機能が威力を発揮する。『楽楽精算』では申請時に自動で勘定科目や税区分の仕訳をするように設定可能だ。さらに会計ソフトと連携しているため、手入力する必要がなく、経理部門の業務効率は格段に上がる。

このように『楽楽精算』は経費精算業務のすべてのプロセスで時間と労力を削減する。さまざまな作業が自動化されることでプロセスが正確、迅速に進み、差し戻しがなくなる、作業ストレスが減るなど、社員一人ひとりに多くの恩恵を生み出す。そして、経費精算は社内のあらゆる部門、階層に関係し、日常的に行われる業務だけに、一つひとつの小さな作業の効率化が集積し、会社全体に大きなメリットをもたらすのである。

多くの時間をコア業務に注ぎ、競争力を強化

そうしたメリットの最も大きなものの一つが、「コア業務への集中」である。中村社長はこう説明する。

「企業の競争力は、社員一人ひとりが本業のミッションを果たしてこそ高まります。営業は営業活動に、管理職なら企画立案や経営戦略に、経理なら経営数字の把握や検証、財務・会計戦略に力を注ぐことで、企業活動は活発になり、成長できるのです。ですから経費精算のような作業には、なるべく時間や労力をかけないようにすることが望ましい。『楽楽精算』が経費精算業務を効率化する意義は、実はこのことが非常に大きいと考えています」。

つまり、単純な作業の時間や労力を削減することで、社員が本業に集中する時間と余裕を生み出し、それが競争力強化につながるのである。

ラクスではこうした発想に立ち、『楽楽精算』のほかにも、紙の請求書などの帳票を電子化するシステム『楽楽明細』を提供している。郵送費や印刷の費用、そのための手間や時間も削減することができ、社員の本業への集中に貢献している。

「競争力をより一層高めていきたいという企業に対して、IT化によって無駄な時間やコストをカットし、満足のいくサポートが出来ればと思っています」。



株式会社ラクス代表取締役
中村崇則氏

『楽楽精算』の導入により、すべての部署の作業効率が格段に上がる



WEB公開中！バカボン一家が教える、楽楽精算で経費精算がラクになるヒミツ！



営業さんも、



部長さんも、



経理さんも、

みんなの仕事をラクにするのだ！

「めんどろ」の反対は…

ラクラクなのだ

検索

赤塚不二夫 生誕 80 周年 企画
天才バカボン
©赤塚不二夫 / 天才バカボン製作委員会

